

第24回日本癌病態治療研究会を終えて

第24回日本癌病態治療研究会当番世話人
獨協医科大学第一外科 教授

加藤 広行



昨年の6月25日、26日の両日、第24回日本癌病態治療研究会を栃木県日光市の日光千姫物語において開催させていただきました。歴史と伝統のある本研究会の当番世話人を務めさせていただきました誠にありがとうございます。顧問であります磯野可一先生、生越喬二先生、現理事長であります竹之下誠一先生をはじめ、名誉世話人、理事、会員の諸先生方に衷心より厚く御礼申し上げます。研究会のテーマは『世界遺産の地で癌病態を探究する』とさせていただきました。日光の社寺は1999年に世界文化遺産に登録され、2015年は徳川家康公の没後400年を迎え、日光東照宮400年の式年大祭記念の年でもありました。このような節目の年に世界遺産の地で歴史的・文化的価値を認識する一方で、107演題に及ぶ多数のご発表を元に本研究会の目的である癌の病態解明や臨床研究について活発な討論をいただき、治療法などの学術研究を網羅的に推し進めていただけたことを大変感謝いたしております。研究会は2日間の日程で、9セッションの口演と14セッションのポスター発表を企画いたしました。2日間を通じて、34名の先生方に司会を賜り、特別講演、教育講演や総括（特別発言）を6名の先生方に賜り、全国各地からご来駕いただきました世話人および会員の先生方の参加者総数は260名を数え、おかげさまで盛會裡に終えることができました。

本研究会は、癌の病態や治療法に関する学術研究を行い、その病因や癌悪性度および宿主の生体反応に基づいた治療法の確立を目指し、1992年に発足して早20余年を迎えております。そして2013年11月1日に特定非営利活動法人（NPO 法人）として新たな一歩を踏み出しました。私は理事として研究会のさまざまな仕事を仰せつかっておりますが、本研究会を主催させていただけたことは私にとってこの上ない喜びであり、心より皆さまに感謝申し上げます。

初日の6月25日は生憎の曇り空でしたが、多くの来席者のもと研究会を開始することができました。開会式のあと、パネルディスカッション1「癌外科治療の潮流と革新」、シンポジウム1「基礎から臨床へのトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）」、パネルディスカッション2「癌治療の支持療法と補助療法の役割」とセッションが進み、招請講演は「世界文化遺産 日光東照宮を守り伝えるために」という題目で、日光東照宮の稲葉久雄宮司から貴重な写真を見せていただきながら、日光東照宮の創建以来、護持のために幾多の試練・困難を乗り越えてきた先人たちの歩み、絢爛豪華な社殿の歴史についてお話していただきました。その後、ワークショップ1「進行乳癌の治療戦略」、8セッションのポスター発表まで円滑に進行し、1日目のプログラムをすべて終了いたしました。さら

に夜には全員懇親会を開催し、日光東照宮の楽師により「世界最古のオーケストラ」とも呼ばれる雅楽の演奏に耳を傾けていただきながら、栃木産の食材を使用した食事をお楽しみいただいたことと思います。また、懇親会の中では、非常に素晴らしいご発表をされた9名の優秀演題賞受賞者の表彰式も行われました。

2日目の6月26日は時折小雨も降る生憎の天候となりましたが、朝早くから多数の先生方のご出席をいただきました。シンポジウム2「消化器癌における集学的治療の更なる発展を目指して」に始まり、教育講演「癌の発生・進展に係る分子機序の複雑性について～食道扁平上皮癌を例として～」を国立病院機構九州がんセンターの藤也寸志先生から扁平上皮癌を例として癌の分子生物学的研究の問題点や分子異常の多様性についてご講演をいただきました。続いて特別講演「早期大腸癌の病理診断で病理医から臨床医に理解してもらいたい事」を神鋼記念病院の藤盛孝博先生から病理と臨床の連携する上で注意することをメッセージとしてご講演をいただきました。その後、ワークショップ2「バイオマーカーと遺伝子」、ワークショップ3「癌免疫と癌幹細胞」、ワークショップ4「肺癌の個別化医療の現状」、6セッションのポスター発表で2日間に渡る全日程を終了いたしました。2日間を通して、司会の先生方の素晴ら

しい進行のおかげで活発な議論を行うことができ、とても有意義な研究会となったのではないかと思います。

教室員が一丸となり仕事をした甲斐があり、なんとか無事に本研究会を終えることができました。理事の先生方をはじめ、多くの先生方から多大なるご支援をいただき、さらに過分なるお褒めのお言葉をいただきましたことに教室員一同心より感謝いたしております。

NPO 法人として新たな一歩を踏み出しました日本癌病態治療研究会において、このような大役を私にお任せいただきましたことを磯野可一先生、生越喬二先生、竹之下誠一先生をはじめ、すべての関係各位に御礼申し上げます。

今回の研究会での議論が、今後の癌の診療、研究および教育に少しでも役立つこととなればこれに勝る喜びはございません。最後になりましたが、皆さまのご健勝と日本癌病態治療研究会のご発展を祈念いたしまして、研究会の報告とさせていただきます。